

# 清心女子高等学校

## 高2 国際系

# AMOUR Four CAMBODIA

高校生ボランティア・アワード2022

### 1年間カンボジア活動

～カンボジアへの支援からカンボジアとの協働へ～

昨年1年間を通して、カンボジアについて沢山学び行動してきました。

#### 1. カンボジアとの出会い

授業で歴史を学んだことで出会ったカンボジア。APU(立命館アジア太平洋大学)のカンボジア留学生との交流や大分カンボジア協会の方々との対話を通じ、カンボジアについてさらに興味を持つようになりました。

夏休みにはAPUを訪問し、留学生にカンボジアと日本との違いなどを発表し、意見交換を行いました(大分スタディツアー)。ユニセフのカンボジアスタディツアーにも参加し、寺子屋に通う現地の子どもたちとzoomで交流しました。

#### 2. CHAとの出会い(CHAの商品販売⇒井戸の寄付まで)

フェアトレードのボランティアをした際に、CHA(スキルトレーニングを通じカンボジアの女性・障がい者等の社会復帰を目指すNGO)と巡り合い、CHA JAPAN代表の方から活動の内容を教えていただくとともに、CHAの女性の方々が作ったアクセサリを生徒や卒業生、先生等に販売しました。その販売によって、カンボジアで弱い立場にいる人々の自立を支援するとともに、収益でカンボジアに井戸を寄付することができると考えました。

#### 3. カンボジアデイ

3月には、活動の総仕上げとしてカンボジアデイを開催し、良い面も含めカンボジアについて多くの生徒に知ってもらいました。カンボジアデイにはカンボジアの留学生も招き、①カンボジアカレーの提供②カンボジアの女の子と日本人の女の子の交流を描いた英語劇を上演③メンバー全員がそれぞれカンボジアについて調べたパネルを展示④カンボジアの名物・名所のスライドを作成し上映⑤カンボジア民族衣装の展示⑥CHAの商品の販売を行いました。カンボジア留学生と共に、カンボジアの良さを他の生徒にも伝えることができました。カンボジアデイの冒頭で、井戸を2本寄付するセレモニーも実施し、全校生徒に、みんなの協力が形になったことを伝えました。

#### 4. 考察

1年間の活動の中で、困っている人へ何かを寄付する支援だけではその場で終わってしまい、長続きしないと感じました。持続可能な支援とは、その方々の思いを聞いて理解し尊重すること、一緒に1つの目標に向かって活動すること、自立の支援が大切だと感じています。



ZoomやFacebookでの交流



CHAとの出会い



CHAの販売準備



留学生を倉敷に招待しての交流



### カンボジアデイ

1. 全校集会で、CHAの商品を販売した収益の一部でカンボジアに井戸を二本寄付するセレモニーを実施
2. カンボジアのことを全校生徒に知ってもらうため、カフェテリアで様々な企画を実施
  - ①カンボジアカレーを少しスパイスを弱くして提供。マンゴージュースも販売。
  - ②カンボジアの女の子と日本の女の子が交流し、相互理解を深める様子を描いた劇を全員で演じ、それを録画したものを放映
  - ③メンバー各自が、カンボジアについて興味を持った事柄について調べ、それを一枚のパネルにまとめ、展示
  - ④カンボジアの名所や名物についてスライドを作成し放映
  - ⑤カンボジアの民族衣装の実物と着用した人の写真を展示
  - ⑥CHAの商品を販売(CHAの活動を宣伝)
  - ⑦APUカンボジア留学生との交流



大分スタディツアー



### Made in Cambodia

#### 夢と希望が詰まった彼女たちのアクセサリ

首都であるプノンペンなど、都市部こそ発展し続けるカンボジアですが、農村部にはまだまだ地雷の不発弾が残っています。今では地雷による負傷者や死亡者は減少していますが、終戦直後、その数は大変多く、加えて、物資不足のためにポリオのワクチンが受けられず感染してしまった人も少なくありませんでした。そんな社会的に立場の弱い女性に手を差し伸べたのが

『CHA(Cambodian Handicraft Association offers women with disabilities)』です。

CHAは、カンボジアで地雷やポリオにより障がいを持った女性に住み込みでの職業訓練を提供し、彼女たちの自立を支援している団体です。今までに300名以上の障がい者が新しいスキルを習得し、生きる希望を持ち、自身の町に帰郷しました。身に付けたスキルを活かして新しい仕事に就いたり、故郷で商売をはじめたりしています。寸分狂わぬ裁縫技術が彼女たちの強みの一つです。

CHAのアクセサリは金属を使っていないため洗濯ができ、金属アレルギーの方も身につけることができます。なにより、オールシーズン身につけることができ、性別・年齢関係なくおしゃれを楽しめるファッション性が大好評で、「支援だから買う」ではなく「可愛いから欲しい」と思える商品なのです。喜ばれながら技術を広めることが出来るとは、なんて素敵なことでしょう🌱

実際に井戸の資金集めとして校内で販売したところ大好評でした！CHAの商品を使用してくださる姿を見る度に、心が暖かくなります。

### 蛇口から水が出るのは当たり前？

昨年8月にオンラインでカンボジアの寺子屋に通う子どもの家を訪れた際、驚愕の光景を目にしました。蛇口をひねれば水が出るのが当たり前の日本。しかしカンボジアの地方の85%の人は危険な水を飲むほかないのです。そして生活に必要な水を川まで何時間もかけて往復するのは夢と希望に満ち溢れた幼い子どもたち。家族のため賢明に働くが故に学校で十分な教育が受けられず、将来の仕事の数に限り生まれるのです。しかもその水は病気にかかるリスクが非常に高く、水が原因で命を落とす人も少なくないです。中には庭に井戸が掘られている家もあるものの、複数の家庭で共有している。そんな人々を救うべく、井戸を寄付するための資金を集めました。

現地に実際に行くことは叶いませんでしたが、Cambodia Dayをはじめ色々な所でアクセサリを販売した利益の一部を井戸の資金として使いました。

一人でも多くの人が安心して水が飲める環境に向かっての一步を踏み出すことができれば幸いです。



### 『国際系2年生』プロフィール

国際系2年生12名。全く性格の異なる12名が、高校入学直後から、カンボジア支援を中心に様々な活動に取り組んできました。

「おしゃれも好き！」「SNSも大好き！」普通の女子高生だけど、何にでも興味を持って、意見を言い合って、どんどん動いていこう。困っている人がいたら助けてあげたい、そんな元気な前向きな12名です。

今回は、「アイデアいっぱい積極的に活動するあきほ」「気遣いと優しさいっぱいのアレックス」「誠実で責任感の強い花梨」「人の嫌がる仕事を快く引き受けるまっすぐなあすか」この4人が代表です。

カンボジアについて学ぶ機会をもらったら、文化や人々についても知りたくなり、カンボジアスタディツアーにも参加しました。積極的に参加したことで、寺子屋の生徒と繋がることができ、彼らの文化や生活状況を身に染みて理解することができました。

私たちの最大のプロジェクトは、CHAの製品を販売して、カンボジアの女性の自立支援をするのと同時に、その収益で井戸を寄付すること、カンボジアの良さを伝えることでした。これからは、「心を清くし愛の人であれ」という校訓を胸に、目には見えない人の気持ち、行ったことのない国の人々に心を寄せて、考え実行できるグループでありたいです。



# LOVE AND PEACE

### Conclusion / From now on

カンボジアはとても美しい国です。

私たちが見落としがちなのは、地雷によって障がいを持った人たちがいるといったカンボジアの人々が直面している問題です。カンボジアの現状を知った私たちは、負の歴史からもたらされた問題から目を背けるのではなくそれを踏まえて新たな一歩を踏み出すにはどうすれば良いのか生徒ひとりひとりが主体的に考え実践しました。

そして、活動が持続可能であるためには、自立を支援するための活動が大切であること、「やってあげる」のではなく「現地のひとと共にやる」ことが大切であることを学びました。

同時に、問題・課題を解決するには現状を知ることが何よりも大事で、正しく理解してこそ初めて行動に移せるということも実感しました。机に向かった勉強では得られない貴重な経験は一生の財産となりました。これからは【**高校生の私たちに出来ること**】をスローガンにカンボジアの今を伝えていく活動に取り組んでいきます。この経験をした私たちだから、一人でも多くの人にカンボジアの現状を知ってもらって、興味を持ってもらうことができると考えました。SDGsの軸である”誰一人取り残さない”ためにも現状をより多くの人に知ってもらいよりよい世界を創りましょう！